

NPO 純正律音楽研究会会報 ～2016年8月発行～

# ひびきジャーナル



〒168-0072 東京都杉並区高井戸東 3-2-5-102 Tel:03-5317-0291  
Fax:03-5317-0289 e-mail:puremusic0804@yahoo.co.jp

発行日 平成 28 年 8 月 19 日  
発行責任者 NPO 法人 純正律音楽研究会  
編集 相坂政夫

## No.49



秋の七草も咲き、朝晩は少し過ごしやすくなってきた今日この頃、会員の皆様いかがお過ごしでしょうか。

7月7日、NPO 法人 純正律音楽研究会、名誉会長、永六輔さんが永眠されました。純正律音楽普及のため、いろいろとご指導、ご協力いただき誠にありがとうございました。今頃はあの世で玉木宏樹と再会していると思います。ご冥福をお祈り申し上げます。

さて、玉木宏樹が作曲したいろいろな曲の中から珍しい合唱の楽譜がありました。この合唱曲はハーモニーが素晴らしく、次回コンサートで合唱曲を披露することになりました。日時は9月17日土曜日、午後2時、新宿文化センター・小ホールにて開催いたします。是非ご来場ください。

前号でお知らせいたしましたCDリリースの件、いろいろと問題点が発生し、再録音する事になりました。再度の延期になり誠に申し訳ございません。9月末前後完成を目指しております。ご了承のほど伏してお願い申し上げます。

## コンサート・リハーサル・レッスン、怒涛の夏休み

洗足音楽大学教授・ヴァイオリニスト  
NPO 法人 純正律音楽研究会 代表  
水野佐知香

今年の梅雨明けは遅く8月に入ろうかという頃でした。すっかり日本列島は暑い毎日が続いています。会員の皆さまお変わりありませんか？  
オリンピックも始まり、選手の方々の活躍を見ながら、努力をすること、0.0001でも勝敗が決まること、そしてメダルをとらないで帰る悔しさなど、本当にいろいろなドラマを見ながら、凄い世界！と、東京オリンピックが楽しみになっています。

さて、今回製作のCDの出来上がりにいろいろ問題が生じ、8月末に録り直しをすることになりました。待っていただいている会員の皆さまには心よりお詫びを申し上げます。

7月は大学で私が授業を持っているストリングオーケストラのコンサートにハンガリー国立オーケストラのコンサートマスターとの共演、また、わたしの同級生でもある、萩京子、吉川和夫、そしてピアニストとでもある寺嶋陸也さん、3人の作品を一晩で私が弾くコンサートもありました。全て新曲、その中に無伴奏が3曲。とても大変でしたが、本番は楽しく終わりました。やはり、努力はすべきですね（笑）

怒涛のような7月の予定が終わり、9月17日の新宿での当会のコンサートのリハーサルに入っております。今度のコンサートは、玉木さんの合唱曲も取りあげます。

神戸出身の彼らしく、大阪弁で子守歌、デビル、いうてんか等楽しい歌詞に実にきれいなハーモニーがつけられています。面白い!!辻志朗先生の指揮で女性コーラス9人と私たちハーブの三宅さん、お箏の吉原さんと私、とても楽しく一回目のリハーサルを終えました。

玉木さん！実に凄い！

さて、先日、クアルテットとして30年同じメンバーで続いている「古典四重奏団」の特別講座を洗足学園音楽大学で行っていただきました。彼らはバルトークでもショスタコーヴィチでも何でも暗譜で演奏してしまう。当日もショスタコーヴィチのあの有名なクアルテット8番をもちろん暗譜で演奏してくれました。

これこそまさに純正律!!□

美しい響きの中で彼らの身体のすみずみにまで入った音を聴いて私自身とても癒されました。個性豊かな4人が集まったクアルテットで30年同じメンバーで弾き続けることはどれだけ大変なのかと思いつつも、それを克服して今があることを痛感いたしました。クアルテットが1つの生き物のようでした。

8月は、セミナーでいろいろな生徒さん、先生との出会いがあり、避暑地に行っていますが、ほとんどレッスンをしているので、涼しいかどうかはわからない日々を送っています。

また、秋に向かってのコンサート、コンクール審査などが始まります。

常に努力を惜しまず美しいハーモニーを求めて、深い音楽を追求していきたいと思っている日々です。

#### ●コンサート情報

水野佐知香がコンサートマスターを務める「ヴィルトゥオーゾ横浜」の第16回演奏会が9月4日午後2時より、みなとみらい小ホールで行われます。

オレグ クリサ氏をゲストに、バッハ ヴァイオリン協奏曲、シェーンベルク 浄夜など、たっぷり弦楽器のハーモニーがたのしめます。お申し込みは当事務所までどうぞ！

### ムッシュ黒木の純正律講座 第48時限目

#### 平均律普及の思想的背景について(37)

純正律音楽研究会理事 黒木朋興

前回は、個人の内面の思考なり情念を美の基点とするモダン美学の起源の一人としてデカルトを取り上げた。今回は、そのような美学に対する反証としてパスカルを取り上げてみたい。

パスカルと言えば、「クレオパトラの鼻がもう少し“低かったら”歴史が変わっていた」という文言で有名だろう。1654年11月23日の深夜にかけて、彼は約10時間の間「火の体験」と呼ばれる神秘的な体験をする。この日を境に彼はそれまでの放蕩を悔い改め、人生を信仰に捧げることとなる。そのパスカルが息を引き取った時、パルカル家の使用人であったグリエ神父は、羊皮紙に包まれた紙片がパスカルの上衣の裏地に縫い込まれているのを発見する。その紙片と羊皮紙には「火の体験」のことが書き込まれていたのだ。彼の生前、この紙片と羊皮紙の存在を知る者は、家族や友人を含め、皆無であった。彼は、これらの文書を誰に知られることなく、肌身離さず身に着け、神への思いと自らへの戒めを自分の心に刻み続けていたのである。

ここで、誰にも知られずに、ということの意味を考えてみたい。この文言を文字どおりに取れば、パスカルのこの行為は自己満足のため、ということになる。そうだとすれば、パスカルのこの態度は、とある芸術作品に対し他の誰もが駄作だとこき下ろしたとしても自分が感動したのなら少なくとも自分にとってその作品は立派な芸術なのだ、という主張と同質なものとなるだろう。しかし、パスカルにおいては事情は異なる。確かにこの文書の存在を知る人間は彼

以外に一人もいなかったのは事実だが、その存在を把握している存在が皆無であったわけではないのだ。その存在とは誰か？と言えば、＜神＞である。この宇宙の創造主たる＜神＞はこの世の全てを把握しており、一個人が他人に隠れてした行為も、心の中で密かに思ったことも、全て見聞きしている存在なのだ。つまり、全知全能の神というわけである。ということは、もちろんパスカルの行為も＜神＞が把握していないということなどあり得ない。つまり、パスカルは振る舞いはあくまでも＜神＞に捧げられたものであり、その意味で決して自分一人だけのための自己満足などではあり得ず、ということは、没コミュニケーションでは断じてない。あくまでも彼と＜神＞との間のコミュニケーションが問題となっていたというわけなのだ。

そのような＜神＞とのコミュニケーションにおいては、すべての判断基準は＜神＞となる。傑作を作ったとするならば、その作品の存在が誰に知られることがなくとも、また誰に評価されることがなくとも、＜神＞が認めてくれさえすればそれで良いのだ。この場合、この芸術家の態度は、人間社会に対しては閉じているかもしれないが、世界の創造者である神には通じているので、決して世界に対して閉じてはいないことになる。

芸術活動とは、決して個人の自己満足で終わるものではない。周りの社会や世界を巻き込むものではなくてはならないのだ。となれば、周りの人間の評価がどうしても気になるところだが、＜神＞あるいは＜世界＞に通じていれば、他人の評価は二の次ということになるだろう。焦点は、作品と＜世界＞との関わりなのだ。対して、一個人の内面の判断が芸術作品の価値を決めるようになったのがモダンという時代の特徴であるということになる。

<p><b>連続エッセイ【外科医のうたた寝】第 37話 永 六輔さん 帰天</b></p>
---

純正律音楽研究会理事  
福田六花(シンガー・ランニング・ドクター)

永 六輔さんが亡くなった。僕が永さんと知己を得たのは、純正律音楽研究会発足のパーティーでのことでした。玉木宏樹さんの純正律音楽を素晴らしいと讃え「この音楽を世の中に広めましょう。」と名誉会長と宣伝部長を引き受けてくれたのです。

純正律音楽のコンサートにもたびたび足を運んでくれ「あなたの歌はなかなか良いですね。」と僕に声を掛けてくれました。

携帯電話やメールアドレスを持たない永さんとのやりとりはもっぱら手紙です。2004年頃「あなたのことを世の中に紹介するから」と週刊朝日に紹介してくれ(なんとカラーグラビアに登場しました)、そのあとは御自身のラジオ番組

にも呼んで頂きました。

ラジオの生番組に出演する土曜日の朝、クルマを運転して赤坂の放送局に向かっていると「今日はシンガー&ランニング・ドクター福田六花さんが来ますよ、お楽しみに。」と云う永さんの声がカーラジオから聴こえてきました。

僕が施設長を務めている<介護老人保健施設はまなす>の開設 2 周年記念のイベントには、手品師の方を伴って駆けつけてくれ、150 名のお年寄りの前で楽しいお話をタップリと聴かせてくれました。

2012 年、玉木さんと共著で出版する予定であった純正律音楽本は、玉木さんの逝去に伴い、僕の単著として世の中に出ることになりました。その本の帯に推薦文を書いて頂けるようお願いの手紙を書いたところ、

「玉木さんの遺志のお手伝いします。永 六輔」と云う短い返事をすぐに頂きました。書いて頂いた推薦文はまさしく純正律音楽を言い表している素晴らしい文章でした。

純正律というのは、上手なマッサージみたいなものですね。心にしみ込んで和らげてくれる。書き物がはかどるから、僕は書斎で四六時中流しています。

永 六輔

CD レビュー純正茶寮

『秩父遥拝』

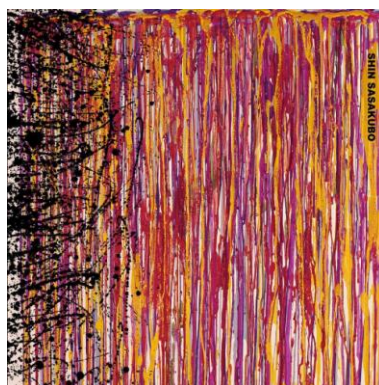
純正律音楽研究会理事 黒木朋興

『秩父遥拝』

笹久保 伸

レーベル: CHICHIBU LABEL/BEANS RECORDS

ASIN: B00MMRR43U



前回紹介したギタリスト笹久保 伸氏の 2014 年の作品。笹久保氏が活動する秩父地方で、すでに歌われなくなった仕事歌を笹久保氏が編曲し直して演奏・録音した作品である。

ギターということもあり、音楽内容は純正律ではない。しかし、氏は秩父の郷土に根ざした活動を続けており、その中でも特に武甲山開発による環境破壊

をテーマに映画や美術作品なども創作している。日本の民謡を現代に合わせて器用にアレンジしてあり、エレキギターが入ったもの、レゲエ調もの、ギター一本での弾き語りなどがある。そのアレンジの技量はさすがの一言である。私としてはロック調の編曲が聞ける11曲目の「クイクイ」がお気に入りだ。

しかし、音楽的なこと以上に、郷土に根ざしたアート活動、そして何よりも環境問題に焦点を当てた作品群はまさに純正律音楽研究会で紹介するのにふさわしいものと判断した。

氏は、アート活動のために武甲山に関する様々なフィールドワークをしている。具体的には地元の人にとってインタビューをしたり、武甲山に登り聖地の跡を確認したりしているのだ。最近では、武甲山にしか自生していない希少植物「ミヤマスカシユリ」を38年ぶりに確認し、撮影に成功している。この植物は、近い将来に絶滅の危険が高い「絶滅危惧ⅠA類」に指定されており、早急な環境保護対策が求められている。

なお、このフィールドワークの成果は、NPO 頸城野郷土資料室 学術研究部 (<https://sites.google.com/site/kubikinolabo/paper>) に学術論文として発表されている。興味のある方は下記のURLのアクセスして読んで頂けたら幸いである。

笹久保伸、『秩父・武甲山論 その破壊と来るべき信仰にむけて』, 2016.  
<https://docs.google.com/viewer?a=v&pid=sites&srcid=ZGVmYXVsdGRvbWFpbxrdWJpa2lub2xhYm98Z3g6NjIzZTliMTBkMTJlZDA2Mw>

## 連続6回ドラマ音楽の現場 第一回 作曲家の収入

玉木宏樹遺作

「君は一体何をやっているのかね」

「あなたの職業はなんですか？」

これは私の最も苦手な質問である。

税務署の職業欄には「作曲家」と書いているのだから、一応そのようには答えるのだが、これほど気恥ずかしい呼び名はない。

だいたい「\*\*家」というのは、その本人ではなく、他人の使う呼び方である。

通称「八百屋」の職業は「青果業」だし、「床屋」は「理髪業」である。

我々と似たような呼び方をされる「作家」の先生たちは多少自虐的に自分のことを「物書き」といったりする。

これは、どこか自分のかさぶたを搔いているような懐かしげな風情があって、かわいしい、決して照れ臭い言い方ではない。「売文屋」という人もいる。しかし正確には「文筆業」とか「著述業」というのだろう。

その点、「作曲家」はどうだろう。昔気質の人は「音屋」と自称した人もいた。

「書き屋」というのもどうもしっくり来ない。「劇判屋（劇の伴奏を書くからゲキバン屋と呼ぶ）」にしてもほとんど一般性はない。

どうやら作曲を「業」とするということは、日常言語では置き換えられない「特殊」でうさん臭い存在でもあるようだ。

数年前、駐車違反で反則切符を切られたとき、職業をきかれて「音楽関係自由業」とこたえた。すると警官に、「そんな職業はない、なんだそれは！もぐりの芸能プロか」と言われた。

仕方なく小さな声で「作曲家」ですとこたえると警官の態度は一変した。

「いやいやそれならそうと、最初からおっしゃってくださればいいのに」そして、一人きりで時間をもてあましてでもいたのか、「森進一を知っているか」とか「島倉千代子はどうか」と興味ぶかげに詮索したあげく、無罪で放免してくれた。

ここだけの内緒のはなし、軽い違反でおまわりさんに呼ばれたときに、相手が一人だけの場合（二人では融通がきかない）、職業を、作曲家もしくは演奏家（できればクラシック系）と名乗ってみればよい。たいてい面白い結果がでるだろう。

こんなこともあった。

青山通りから表参道の交差点を強引に右折したとき、待ってましたとばかり白バイがサイレンをあげて飛んできた。

何をそんなに急ぐことがあるのかと皮肉まじりに詰問するので、後ろの座席のヴァイオリンを指差しながら、「三時のNHKに遅れそうなんです」というと、態度は一変、警官は敬礼をしながら「気をつけて、無理をなさらないように」と去っていった。

世界に冠たる日本の警察官は芸術を愛好し、真・善・美を全うすべしという教育を受けている成果である。

今の若者のように自らのことをはずかしげもなく「アーティストです」と名乗るような度胸を持ち合わせていない私は、いまだに自分のことをどう規定しているのかわからないままのだけけれども.....。

さて作曲家というのは、作曲でギャラを得て生活している人だとすると、大学で教えながら一年に一度「交響曲」を発表する人は厳密に言えば作曲家ではない。職業は大学教授である。

世間のイメージで作曲家の収入といえば、最初に思いつくのがレコード・ヒットによる印税収入だろう。しかしこれは、いい作品を作曲した結果の、著作権使用料収入であって、厳密にはその曲を書いた作曲料ではない。だいいち、著作権使用料だけで生活できる、めぐまれた作曲家はごく少数しかいない。

売れるかどうかかわからないメロディ作家というのは成功すればともかく、非常に危険である。では「作曲」による収入の主なもの.....

これがなかなか難しい。

「作曲」だけを主体にして生活できる人はポップス系もクラシック系もごく少

数しかいない。大多数の人は「何かのため」に作曲して収入を得ている。校歌や社歌からオリンピック・ファンファーレにまでいたるモニュメント用のもの、歌手や演奏家からの発注、団体からの発注（オペラ、ミュージカル、バレエ等）、教育用音楽（ブラスバンドや合唱）等々、いろんな発注はあるが、一番普遍的で歴史も長いのがドラマとか映像につける音楽だろう。私の場合も一番多かったのがCM音楽で、そのつぎが映画やTVドラマの背景音楽である。さきほどふれた劇伴（ゲキバン）のこともである。

考えてみれば、私はずいぶん劇伴のお世話になっている。貧乏学生だった私のアルバイトは、劇伴オーケストラでヴァイオリンをひくことだった。

TVの30分ドラマに作曲された15曲位の新曲を2時間で録音する仕事から、8時間くらいの拘束で映画を一本録音する仕事等である。

まえもってのリハーサルなど全くなく、手書きの読みづらい楽譜を初見で練習し、すぐに本番という流れ作業である。

当時（昭和40年頃）のオーケストラのエキストラが1時間500円くらいが相場だったのに対して、劇伴は1時間1000～1200円もらえた（現在、人によってランクは違うが、大体、1時間6000～8000円のあいだくらいか）。

しかしたいの録音スタジオは古くさくて汚く、出入りしているプレーヤーたちもどことなくたそがれていて、自分たちのことを「ガクタイ」と自虐的に呼ぶ人たちだったから、劇伴の仕事をするということは、妖怪か何か、見てはならない舞台の裏側に強制的に連れこまれたような気分だった。

やがてだんだんとその世界にも慣れるにつれ、もともと映画音楽の作曲をやってみたいという夢をもっていたので、やがてはその道に入っていくことになる。

さて、ドラマ音楽の代表、「映画音楽」といえば、ひと昔前の「エデンの東」や「太陽がいっぱい」等の、華やかなものはやった時期のことを思いだされるかたも多いだろう。

あれはたしかに映画音楽の一種ではあるが、しかし、ああいうものばかりが映画音楽というわけでもない。

それは追々説明していくことにして、私は去年、非常に分かりやすいTV用のドラマ音楽をてがけた。その中から二つを紹介したい。

それはテレビ東京の「大江戸捜査網」、TBSの二時間ドラマ「ヘッドハンター」である。

この作品たちにつけられた音楽のことをかたれば、大体ドラマと音楽の関係が見えてくるだろう。

だがその前にドラマと音楽の歴史を少々振り返ってみよう。（続く）



## 租税回避地(タックスヘイブン)について (その2)

純正律音楽研究会 正会員  
弁護士 齋藤昌男

1. 前回タックスヘイブンについて書いたが、書き足りない事が多くあるので、今回はその2を書くことにする。
2. 長らく所謂渉外弁護士をやってきた者から見ると、あくまで経済に限ったことであるが、今日の世界経済の最大の問題の一つは、タックスヘイブンとその背景にいるジャブジャブの金を使って、マネーゲームをしている投資家達をどうするかである。

更に、パナマ文書の流出では、富裕層や大企業による租税回避行為ばかりが注目されるが、実はそれだけではなく、世界の闇の部分、即ち、マネーロンダリングをする不正な勢力や反社会的勢力の摘発にも役に立つものと思われる。

3. まず筆者が扱った例から話を進める。戦後、まだ Coca Cola が出て来る前に、お米屋が扱っていた清涼飲料水がある。お米屋と聞けば、年配の方ならずぐ名前が出て来る清涼飲料水である。それを売っていたのは、何とパナマ法人の日本支社であった。そのパナマ法人の実質的なオーナーは宝塚に住んでいたイギリス人故A氏であった。A氏の祖父は、明治の時代に日本に来て、神戸に住み日本で事業を始めたが、その頃、清涼飲料水に繋がる大変面白い話があるが、今日は止めておく。これは、A氏から直接聞いた話であるが、戦時中、海外にドルなりポンドなりを送金出来なくなったとき、A氏は親の命を受けて、トランクに外貨をいっぱい詰めて、船で神戸から上海へ運んだと言う。またA氏の知り合いの宣教師が逮捕されたとき、日本の新聞には一切出なかったが、何と上海の短波放送は直ちに報道したと言う。やっぱり日本の何処かにスパイがいたと言っていた。

戦時中、A氏の神戸にあった会社は、敵産として接收されたが、終戦後返還となったので、A氏は新たな清涼飲料水の事業を始めた。しかし、事業主体は、パナマ法人の日本支社であり、清涼飲料水の製造販売はA氏が持っていた古くからの会社が行った。然るに、パナマ法人の日本支社は、膨大な商標使用料とノウ・ハウ使用料を取った。商標とノウ・ハウ使用料には、当然、日本で源泉税を支払わねばならないが、源泉税も日本側負担にさせた。(一時、アメリカのレコード会社とか広告代理店が同様な要求をした事があった。)

A氏は宝塚に数千坪という膨大な邸宅を建てた。庭石がごろごろしていたが、一山を買って、山を壊し出て来た石を使って庭石とした。東京へ来るときに田園調布の邸宅に滞在した。なんと田園調布の邸宅は、パナマ法人の日本支社の名義のものであった。

A氏は、法人税が無税であったパナマから秘密が守られるスイスに送金したらしい。らしいと書いたのは、亡くなった時の本人の住所がスイスにあった

からである。亡くなった時、日本での相続税の新聞報道があったが、スイスに住所があると報道されていた。勿論、スイスにある口座、パナマにある口座は、秘密であるから、日本に於ける相続税の対象となっていないようであった。

4. 世の中に、相当な収入がありながら、税金を支払っていない人が現実にいる。どうするのか。一つの国に、年間を通じて183日を超えて滞在しなければ良いのである。二つの国に滞在しながら、年間を通じて183日以上滞在しないようにすることは無理であるから、三つの国を渡り歩けば、三つの国すべてにおいて、滞在期間を183日以下に押さえることが出来る。移動費と滞在費があるが、3ヶ国に滞在すれば、現実に税金を支払わないことが出来る。では、これは何処から来るのか。これは、世界の各国がお互いに締結している租税条約から来るのである。租税条約には、OECDの作成したモデル条約と言うのがあり、各国ともだいたいOECDのモデル条約に従っている。例えば、日本とアメリカとの租税条約によれば、第14条第2項(a)には、次の条項がある。

「(a)当該課税年度において開始又は終了するいずれの12ヶ月の期間においても、報酬の受領者が当該他方の締約国に滞在する期間が合計183日を超えないこと」

と定められている。即ち、ある人に課税する場合、その人が183日を超えてその国に滞在していなければ課税出来ないのである。

5. 実際に、もっと簡単な方法があるという。国籍の違う二つのパスポートを使う方法である。現在では、各国とも二重国籍を出さない様にしているが、違法に二重国籍を取得する人もいる。私が現実に出会ったケースで言うと、例えば、「齋藤昌男」という名前を Sheito Shodan という様に綴っているケースもあった。Sheito Shodan と Saito Masao とは、真に別人に見える。

6. 2016年7月25日朝日新聞は、現金を海外へバレずに投資する方法として次の様に書いている。

「その手口はこうだ。

『札束は本の中に挟むとエックス線では区別が付きにくいので、本をたくさん持って行く。ジャケットの胸ポケットにも200万円ずつ入れる』。持ち出した現金は、出国先の土地に投資し、一部はその銀行に預けている。本格的な不動産投資を始める予定だ。』

7. さてここで改めて、タックスヘイブン（租税回避地などと訳される。）とは何かについて、教科書的ではあるが、定義をしておきたい。タックスヘイブンとは、法人の所得あるいは法人の特定種類の所得に対する税負担がゼロあるいは極端に低い国または地域のことである（金子宏「租税法」第21版、552頁、弘文堂発行）。法人が対象となっているが、言うまでもない事であるが、富裕層が設立した法人も含まれる。そしてタックスヘイブンでは何が問題なのか。新聞や雑誌や書籍の記事を引用すると次の通りである。

(1) 世界経済の規模は七千兆円程度で、ある推計では、タックスヘイブンに秘匿されているお金は二千兆円～三千兆円に及ぶという。（2016年5月1日 朝日新聞）

(2) 国際NGOの試算では、世界の富裕層が租税回避地にもつ未申告の金融

資産は、約2570兆～3750兆円で、世界のGDPのほぼ3割にあたる。  
(2016年5月14日 朝日新聞)

(3) 世界の富裕層がタックスヘイブンに持つ未申告の金融資産は14年時点で35兆ドル(3750兆円)にのぼるという試算もある。日本に限っても、毎年数兆円規模の税収が失われている可能性がある。(週刊ポスト2016年5月27日号58頁)

(4) 租税回避の問題で一番重要なのは、たとえ合法だとしても一部の富裕層や大企業だけがタックスヘイブンの仕組みを利用して税金を圧縮できるのに、財政が圧迫されるしわ寄せが、恩恵に与れない庶民に来るという不公平感です。(週刊ポスト2016年5月27日号59頁)

(5) 2012年にはじまった「オキュパイ・ウォール街運動(ウォール街を占拠せよ)」が象徴するのは、富裕層による富の独占である。経済格差の解消と富裕層への課税強化を求める声が集まったのだ。

こうした経済格差の広がりには貧困層だけでなく中間層の生活基盤をも崩壊させつつある。世界各国に共通した現象だ。

感情的な言い方になるが、「パナマ文書」によって、世界中の中・下流層から呪詛の対象にされている多国籍企業や富裕層の名前が明らかになった。合法、非合法は関係ない。「ずるいことをして蓄財にふける奴ら」の姿が、大量に実態を伴って現れたのだ。(佐藤優著「使える地政学」朝日新聞出版81頁)

## 8. 英国のEU離脱(Brexit)の影響

作品社発行、タックスヘイブンは、全世界に広がったタックスヘイブンとして、3つのグループに分けられるという(254ページ)。

「タックスヘイブンは、今や全世界に広がり、すべての主要金融・商業センターに対応している。近代のタックスヘイブンは、依然として主に三つのグループに分かれる。第一の、そして依然としてダントツ最大のグループは、イギリスを基盤とする、あるいは大英帝国を基盤とするタックスヘイブンだ。シティ中心の、ユーロ市場に支えられたこのグループは、王室属領、海外領土、太平洋の環礁、シンガポール、香港より成る。二つ目のグループは、ヨーロッパのヘイブンより成り、本社センター、金融関連会社、プライベートバンキングを専門とする。三つ目のグループは、パナマ、ウルグアイ、ドバイなどの競争国か、過渡期にある経済国やアフリカの振興ヘイブンのどちらかのまったく異質のグループより成る。」

この第一のグループの英国に、世界の有力金融機関は、英国の銀行免許を得て、シティに拠点をもてば、欧州連合(EU)の全加盟国での支店展開と金融サービス提供が認められてきた。英国のEU離脱(Brexit)となれば、英国の銀行免許では国境を越え難い。旧植民地などとともにシティ中核の大英帝国系タックスヘイブン群を構成する王室属領の島々も欧州の諸規則の枠外に留まるだろう(2016年7月10日 日本経済新聞)。いずれにしても英国のEU離脱は、タックスヘイブンの規制にマイナスに働く可能性が出て来た。

## 9. 今や各国とも財政難、経済格差、大企業や既得権益への不満、税の不公平

感と多くの問題をかかえている。

パナマ文書の流出をきっかけとして、富裕層や多国籍企業による国境をまたいだ過度な節税を防ぐための国際協調策が動き出したことだけは確かである。

2016年7月23～24日に中国四川省成都で開催されたG20財務大臣・中央銀行総裁会議において、税逃れの問題で協力的でない地域を特定するための基準を承認した。また、金融口座の情報を他国と自動的に交換することを2018年までに始めるそうである。

以上

(2016年7月26日脱稿)

(別表) 世界のタックスヘイブン

(作品社発行、タックスヘイブンの89ページ以下に、過去30年のタックスヘイブンに関する11の刊行物に掲載されたリストをまとめたリストが載っている。驚くべきことに91地域があるが、その内1位から36位は前回紹介したので、今回は37位から91位まで紹介する。但し、英文名、地域の紹介は、ウィキペディア等を参考に筆者がつけたものである)

37	アルバ	Aruba	西インド諸島の南端部、南米ベネズエラの北西沖に浮かぶ島。高度な自治が認められたオランダ王国の構成国。本土オランダ、キュラソー、シント・マールテンと共に対等な立場でオランダ王国を構成している。
38	ドミニカ国	Commonwealth of Dominica	カリブ海の西インド諸島を構成するウィンドワード諸島最北部に位置するドミニカ島全域を領土とする共和制国家。島国であり、海を隔てて北西にフランス領グアドループが、南東にフランス領マルティニークが存在する。首都はロゾー。旧イギリス植民地であり、現在はイギリス連邦の一員である。
39	リベリア共和国	Republic of Liberia	アメリカ合衆国で解放された黒人奴隷によって建国され、1847年に独立し、現在のアフリカの中ではエチオピアに次いで古い国である。しかし1989年から2003年にかけて断続的に2度も起きた内戦により、戦争一色の無秩序な国と化していた。リベリアはまた、安価な手数料や船舶国籍証書の発行の便宜を図る便宜置籍国として知られる。登録している船舶数はパナマに次ぐ規模であるが、あくまでも書類上の船籍であるため、ほとんどの船舶はアフリカ西海岸への航海を行わぬままその一生を終える。

40	サモア独立国	Independent State of Samoa	南太平洋（オセアニア）の島国で、イギリス連邦加盟国である。サモア諸島のうち、西経 171 度線を境として西側に位置する。この経度を境にアメリカ領東サモアとサモア独立国に分割されているが、住民も文化も同じポリネシア系である。
41	セーシェル共和国	Republic of Seychelles	アフリカ大陸から 1,300km ほど離れたインド洋に浮かぶ 115 の島々からなる国家で、イギリス連邦加盟国である。首都はヴィクトリア。
42	レバノン共和国	Republic of Lebanon	西アジア・中東に位置する共和制国家。北から東にかけてシリアと、南にイスラエルと隣接し、西は地中海に面している。首都はベイルート。 現在のレバノンに相当する地域は、古代はフェニキア人の故地であった。この地からフェニキア人は地中海を渡り、現チュニジアのカルタゴ・バルセロナ・マルセイユ・リスボンなど各地に植民地を形成した。その後フェニキアの勢力は弱体化し、紀元前 10 世紀アッシリア帝国に飲み込まれたその後民族としてのフェニキア人は消滅したと言われている。 レバノンは歴史的にはシリア地方の一部であったが、山岳地帯は西アジア地域の宗教的マイノリティの避難場所となり、キリスト教マロン派（マロン典礼カトリック教会）、イスラム教のドゥルーズ派の信徒らがレバノン山地に移住して、オスマン帝国からも自治を認められて独自の共同体を維持してきた。19 世紀頃からマロン派に影響を持つローマ・カトリック教会を通じてヨーロッパ諸国の影響力が浸透し、レバノンは地域的なまとまりを形成し始める一方、宗派の枠を越えたアラブ民族主義の中心地ともなった。ただしレバノンのキリスト教徒はアラブ人ではなかった。
43	ニウエ	Niue	南緯 19 度、西経 169 度にある国。ニュージーランドの北東、トンガの東、サモアの南東にある。ニュージーランドとの自由連合関係をとっている。 総面積は 259km <sup>2</sup> 。総人口は 1,500-2,000 人程だが、経済の停滞などで徐々に減少している（2006 年には 1591 人）。首都はアロフィ。 イギリス女王を元首とする立憲君主制であり、総督はニュージーランド総督が兼任している。2015 年現在の元首はエリザベス 2 世。
44	マカオ	Macau	中華人民共和国の特別行政区の一つ。中国大陸南岸の珠江河口（珠江デルタ）に位置する旧ポルトガル植民地で、現在はカジノや世界遺産を中心とした世界的観光地としても知られる。 1999 年までポルトガルの植民地であったマカオは、中国大陸のヨーロッパ諸国の植民地の中でもっとも古く、域内に植民地時代の遺構が数多く点在する。このため、2005 年 7 月 15 日に、マカオの 8 つの広場と 22 の歴史的建造物がマカオ歴史地区という名前でユネスコの世界遺産（文化遺産）に登録された。
45	マレーシア (ラブアン島)	Wilayah Persekutuan Labuan	マレーシアの連邦直轄領の一つで、サバ州の沖合い南シナ海に浮かぶ島。 マレー語でラブアンは「良港」を意味し、正式には連邦領ラブアン（Wilayah Persekutuan Labuan）と称する。中国語では納閩と記される。面積は

			85 平方キロメートルで、中国の香港特別行政区の香港島よりわずかに大きい。
46	モントセラト島	Montserrat	カリブ海の小アンティル諸島に位置する火山島で、イギリスの海外領土である。モンセラットとも呼ばれる。
47	モルディブ共和国	Republic of Maldives	インド洋にある島国。インドとスリランカの南西に位置する。イギリス連邦加盟国。
48	イギリス	United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland	大英帝国を基盤とするタックスヘイブンは世界最大である。
49	ブルネイ・ダルサラーム国	Negara Brunei Darussalam	東南アジアのイスラム教国で、イギリス連邦加盟国である。ボルネオ島（カリマンタン島）北部に位置し、北側が南シナ海に面するほかは陸地ではマレーシアに取り囲まれている。首都はバンドルスリブガワン。
50	ドバイ	Dubai	アラブ首長国連邦を構成する首長国のひとつ。また、ドバイ首長国の首都としてアラビア半島のペルシア湾の沿岸に位置する UAE 第 2 の中心都市。人口は約 244 万人（2016 年 1 月） 中東屈指の世界都市並びに金融センターであり、21 世紀に入ってから多くの超高層ビルや巨大モール、ビッグプロジェクトが建設されるなど、世界的な観光都市となっている。
51	ハンガリー	Hungary	ヨーロッパ中央部の人民共和国。（正称）マジャール（ハンガリー）人民共和国。
52	イスラエル国	State of Israel	アジア南西部の共和国。
53	ラトビア共和国	Republic of Latvia	ソ連西部の共和国。バルト海沿岸を占める。12 世紀にラトビア人の国家があった。住民は約半分がラトビア人。ロシア人は約 3 割。
54	マデイラ諸島	Madeira	北大西洋上のマカロネシアに位置するポルトガル領の諸島である。ポルトガルの首都リスボンから見て南西に約 1000 km の北緯 32 度 22 分 20 秒から北緯 33 度 7 分 50 秒、西経 16 度 16 分 30 秒から西経 17 度 16 分 39 秒に位置する。緯度としてはモロッコのカサブランカと同じぐらいである。政治的主体としての名称はマデイラ自治地域。
55	オランダ	Nederland	ヨーロッパ北西部の王国。北海沿岸の低地を占める。
56	フィリピン共和国	Republic of the Philippines	アジア東部の国。太平洋と南シナ海との間にある群島からなる。
57	南アフリカ共和国	Republic of South Africa	アフリカ南部の共和国。
58	トンガ王国	Kingdom of Tonga	南太平洋に浮かぶ約 170 の島群からなる国家で、イギリス連邦加盟国である。オセアニアのうちポリネシアに属し、サモアの南、フィジーの東に位置する。首都は、ヌクアロファで、最大の島トンガタブ島にある。
59	ウルグアイ東方共和国	Oriental Republic of Uruguay	南アメリカ南東部に位置する共和制国家である。北と東にブラジルと、西にアルゼンチンと国境を接しており、南は大西洋に面している。スリナムに続いて南アメリカ大陸で二番目に面積が小さい国であり、コーノ・スールの一部を占める。首都はモンテビデオ。

			面積や総人口は南米の国家としては小規模だが、ウルグアイはチリに続いてラテンアメリカで二番目に生活水準が安定している国であり、政治や労働の状態においては大陸で最高度の自由を保つ。
60	米領ヴァージン諸島	Virgin Islands of the United States	西インド諸島にあるアメリカ合衆国の保護領（自治領）。ヴァージン諸島の西側半分。東側は、イギリス領ヴァージン諸島。「島」と呼ばれるのは 40 程度あるが、ほとんどが無人島である。人が住み、一般の観光客が訪れるような主要な島は、セント・トーマス島、セント・クロイ島、セント・ジョン島の 3 島である。首都は、セント・トーマス島のシャーロット・アマリー。
61	アメリカ合衆国	United States of America	アメリカにもデラウェア州の様な法人税が低く、株主を大きく保護している州がある。一種のタックスヘイブンである。
62	オルダニー島	Alderney	イギリス海峡にあるチャンネル諸島に属する小さな島である。イギリスの王室属領であるガーンジー代官管轄区に属するが、独自の法律やオルダニー島独自の自治権を持っている。
63	アンジュアン島	Anjouan	別名ヌズワニ島・ンズワニ島-Nzwani、又はジョハンナ島-Johanna、はインド洋のコモロ諸島に浮かぶ島である。肥沃な土地を持つ火山島でンティグイ山（Ntingui、アンジュアン山とも言う）（1595m）が島で一番高い山である。1975年にグランドコモロ島・モヘリ島と共にコモロ共和国（現在のコモロ連合）として独立した。1997年にモヘリ島と共に独立を宣言し、以来、分離独立の動きがある。
64	ベルギー王国	Kingdom of Belgium	ヨーロッパ北西部の立憲君主国。
65	ボツワナ共和国	Republic of Botswana	南部アフリカの内陸に位置する共和制国家で、イギリス連邦加盟国である。南を南アフリカ共和国、西と北をナミビア、東をジンバブエ、北をザンビアに囲まれた内陸国である。首都はハボローネ。南アフリカ共和国を構成する一民族でもあるツワナ系の人々が多く住む。
66	カンピオーネ・ディターリア	Campione d'Italia	イタリア共和国ロンバルディア州コモ県に属する、人口約 2100 人の基礎自治体（コムーネ）。ルガーノ湖のほとりに位置する町で、周囲をスイス領に囲まれたイタリアの飛び地である。その地理的条件から、経済や公共サービスはスイスと一体化している。町の公式通貨はスイス・フランであり、欧州連合の関税制度上特殊な地域となっている。また、公営カジノがあることでも知られている。
67	エジプト・アラブ共和国	Arab Republic of Egypt	アフリカ北東部の共和国。ナイル川の中・下流を占める。
68	フランス共和国	French Republic	西ヨーロッパ西部の共和国。
69	ドイツ連邦共和国	Federal Republic of Germany	ヨーロッパ中部の共和国。
70	グアテマラ共和国	Republic of Guatemala	中央アメリカ北部に位置する共和制国家である。北にメキシコ、北東にベリーズ、東にホンジュラス、南東にエルサルパドルと国境を接しており、北東はカリブ海に、南は太平洋に面する。首都はグアテマラ市。

			先コロンブス期にはマヤ文明が栄え、現在も国民の過半数はマヤ系のインディヘナであり、メキシコを除いた中央アメリカで最も人口の多い国である。経済的にはエルサルバドルと共に中央アメリカの中位グループに属するが、1960年から1996年まで続いたグアテマラ内戦により治安や政治においてグアテマラ社会は未だに不安定な状態にある。
71	ホンジュラス共和国	Republic of Honduras	中央アメリカ中部に位置する共和制国家。西にグアテマラ、南西にエルサルバドル、南東にニカラグアと国境を接しており、北と東はカリブ海、南はフォンセカ湾を経て太平洋に面している。国境はグアテマラとは1933年にアメリカの仲裁により、エルサルバドルとは1992年、ニカラグアとは2007年の国際司法裁判所の裁定により確定した。大陸部のほかに、カリブ海岸にスワン諸島、パイア諸島を領有している。首都はテグシガルパ。
72	アイスランド共和国	Republic of Iceland	通称アイスランドは、北ヨーロッパの北大西洋上に位置する共和制を取る国家である。首都はレイキャヴィーク。総人口は約33万人。
73	インドネシア共和国	Republic of Indonesia	アジア南東部の共和国。
74	イングーシ共和国	Ingush	ロシア連邦の北カフカース連邦管区にある共和国。北カフカース（コーカサス）に位置する。東はチェチェン共和国、西は北オセチア共和国（共にロシア連邦内の共和国）、南はグルジアである。住民の大半が、イスラム教スンナ派のイングーシ人であり、ロシア人は殆どおらず、これはロシアを構成する共和国としては珍しい。
75	ヨルダン・ハシミテ王国	Hashemite Kingdom of Jordan	中東・西アジアに位置する立憲君主制国家である。首都はアンマン。イスラエル、パレスチナ暫定自治区、サウジアラビア、イラク、シリアと隣接する。イスラエル・パレスチナ暫定自治区とはヨルダン川と死海が境である。 立憲君主制をとり、イスラームの預言者ムハンマドの従弟アリーとムハンマドの娘ファーティマの夫妻にさかのぼるハーシム家出身の国王が世襲統治する王国である。 国民の半数余りは中東戦争によってイスラエルに占有されたパレスチナから難民として流入した人々（パレスチナ難民）とその子孫である
76	マリアナ諸島	Mariana Islands	ミクロネシア北西部の列島。東の北西太平洋と西のフィリピン海の境界に位置し、北には小笠原諸島、南にはカロリン諸島がある。南北約800キロメートルに連なる約15の島から構成され、北緯13度から21度、東経144度から146度の間に弧状に広がっている。 南端のグアム島を除く島々を北マリアナ諸島、サイパン島より北の島々を北部諸島（Northern Mariana Islands）と呼ぶ。
77	メリリャ	Melilla	メリリャ、メリージャ（スペイン語: Melilla、またはタムリット（ベルベル語: Tamalit）は、モロッコの地中海沿岸にあるスペインの飛地領。自由貿易港であり、主要な産業は漁業。
78	ミャンマー連邦共	Republic of the	東南アジア大陸部の西部にある連邦国家。11～13



	和国	Union of Myanmar	世紀バガン朝が栄え、19世紀イギリスの支配下に入ったが、1948年ビルマ連邦として独立。89年現名に改称。住民はビルマ人を主として少数民族も多い。大半は仏教を信奉。
79	ナイジェリア連邦共和国	Federal Republic of Nigeria	アフリカ西部に位置する連邦共和制国家で、イギリス連邦加盟国である。北にニジェール、北東にチャド湖を挟みチャド、東にカメルーン、西にベナンと国境を接する。南は大西洋のギニア湾に面し、かつては「奴隷海岸」とも呼ばれた。首都はアブジャで、最大の都市はラゴスである。アフリカ最大級の人口を擁する国であり、乾燥地帯でキャラバン貿易を通じてイスラム教を受容した北部と、熱帯雨林地帯でアニミズムを信仰し後にヨーロッパの影響を受けキリスト教が広がった南部との間に大きな違いがある。また、南部のニジェール川デルタでは豊富に石油を産出するが、この石油を巡って内戦や内紛が繰り返されるなど、国内対立の原因ともなっている。
80	パラオ共和国	Republic of Palau	太平洋上のミクロネシア地域の島々からなる国である。首都はマルキョク。2006年10月7日に旧首都コロールから遷都した。日本との時差はない。
81	プエルトリコ自治連邦区	Commonwealth of Puerto Rico	カリブ海北東に位置するアメリカ合衆国の自治的・未編入領域であり、コモンウェルスという政治的地位にある。プエルトリコ本島、ビエクス島、クレブラ島、ドミニカ共和国との間のモナ海峡にあるモナ島などから構成される。ヴァージン海峡を隔てて東にヴァージン諸島が、モナ海峡を隔てて西にドミニカ共和国が存在する。主都はサン・フアン。
82	ロシア	Russian Federation	ヨーロッパ東部とアジア西部とを占める地域。
83	サンマリノ共和国	Republic of San Marino	イタリア半島の中東部に位置する共和制国家。首都は国名と同じくサンマリノ市。周囲は全てイタリアで、国土面積は十和田湖とほぼ同じ。世界で5番目に小さな国（ミニ国家）である。また、現存する世界最古の共和国である。
84	サントメ・プリンシペ共和国	Democratic Republic of Sao Tome and Principe	西アフリカのギニア湾に浮かぶ火山島であるサントメ島、プリンシペ島、そしてその周辺の島々から成る共和制の島国である。首都はサントメ。ポルトガル語諸国共同体、ポルトガル語公用語アフリカ諸国加盟国。
85	サーク島	Sark	サーク島（Sark）は、イギリスの王領植民地であるチャンネル諸島に属する島である。
86	ソマリア連邦共和国	Federal Republic of Somalia	東アフリカのアフリカの角と呼ばれる地域を領域とする国家。ジブチ、エチオピア、ケニアと国境を接し、インド洋とアデン湾に面する。1991年勃発の内戦により国土は分断され、事実上の無政府状態が続き、エチオピアの軍事支援を受けた暫定政権が首都を制圧したものの、依然として内戦状態が続いている。現在の国土は暫定政権の南部と、1998年7月に自治宣言したプントランド（首都ガローウェ、暫定政権との連邦制に肯定的）の北東部、91年に独立宣言した旧英領のソマリランド共和国（首都ハルゲイサ、国際的に未承認、東部に分離の動き）の北部に大

			きく3分割されている。
87	スリランカ民主社会主義共和国	Democratic Socialist Republic of Sri Lanka	南アジアのインド亜大陸の南東にポーク海峡を隔てて位置する共和制国家。首都はスリジャヤワルダナプラコッテ。 1948年2月4日、イギリスから自治領（英連邦王国）のセイロンとして独立。1972年にはスリランカ共和国に改称し、英連邦内の共和国となり、1978年から現在の国名となった。人口は約2027万（2012年）である。島国で、現在もこの国が占める主たる島をセイロン島と呼ぶ。国名をスリランカに改称したシリマヴォ・バンダラナイケは世界初の女性首相である。また、国民の7割が仏教徒（上座部仏教）である。
88	台北	Taipei	台湾北部の都市、台北盆地の中央、淡水河中流右岸の位置。
89	トリエステ	Trieste	イタリア共和国北東部にある都市で、その周辺地域を含む人口約20万人の基礎自治体（コムーネ）。フリウリ＝ヴェネツィア・ジュリア州の州都であり、トリエステ自治県の県都でもある。アドリア海に面した港湾都市で、スロベニアとの国境に位置している。 第一次世界大戦までは長らくオーストリア＝ハンガリー帝国の統治下であり、その重要都市として繁栄した。第一次世界大戦後にイタリア王国領となるが、第二次世界大戦後はイタリアとユーゴスラビアとの間で帰属をめぐる紛争が生じ、一時期は国際連合管理下の「トリエステ自由地域」が置かれていた。
90	北キプロス・トルコ共和国	Turkish Republic of Northern Cyprus	キプロス島の北部に存在する国である。1983年に、軍事的な後ろ盾となっている隣国トルコの影響下で、キプロス共和国からの独立を宣言した。トルコ以外からの国家承認は受けていないが、キプロス共和国の実効支配は及んでいない。
91	ウクライナ	Ukraine	東ヨーロッパ平原の南西部を占める共和国。東はロシア、北西はポーランド、南西はルーマニア、南は黒海・アゾフ海に接する。肥沃なステップ地帯で、小麦の大産地。住民の4分の3はウクライナ人。1991年ソ連解体で独立。面積60万3000平方キロ。人口4727万1千（2004）。首都キエフ。

## 汗・駄句・駄句

純正律音楽研究会 正会員  
椿 友幸

私は最近俳句の世界にのめり込んでいます。

私と俳句の出会い、20数年前、大阪から東京へ戻ったとき、当時の東京の職場での環境に戸惑い5時半になると新橋や銀座の路地裏の暖簾をくぐっていた頃、ある先輩に誘われて参加した酒を飲む会「ざるの会」。(メンバー全員底なしの酒飲みでこの名がついた)

学生時代、テレビ局、新聞社、出版社等にあこがれ、夢かなわず。幸い訪れた昭和の好景気の中、広告業界の募集増に乗り、マスコミ業界の片隅に席を置

き、自ら二流と自覚しつつも、仕事で一流の作家やタレント、芸術家等にあつたりすれば心さわいだ、そんな五十過ぎの不満じじいの集まりの会、年に一度の酒と俳句の旅。私、即決で入会希望、許可、平成5年よりメンバーとなりました。

私の参加初投句、当時メンバー16名、一点も入りませんでした。

〈行くバスの前で銀杏の円舞曲〉 三五郎（友幸の俳号）

本来、お酒を飲むのが目的で入会した私でしたが、参加して数年後、私の参加投句、何かの間違いか、首席をとらせていただきました。

〈何もかも小春日和の夢の中〉 三五郎

人間褒められるとそのことに多少興味が湧いてくるもので、以来会の旅の季節が近づくと季語辞典を片手に頭をひねりました。あれから20数年「ざるの会」は20歳で卒業式を挙行。名前を「げんきかい」と改名。酒よりも俳句会メインの文化的な会合にその雰囲気を変えました。口だけはメンバーが10名になった今も変わらず、自分の句に一流の俳人顔負けの理屈を述べ、ありとあらゆる語彙を駆使して自己弁護、口角泡を飛ばす。これまさに健康維持とストレス解消の特効薬になっています。

メンバーが70代、80代でも「げんきかい」はまだまだ前を向いて歩いています。私自身の俳句に対する気持ちはその後大きく変化、6年ほど前、叔母から受け取った先祖の資料のなかに、私の高祖父が俳句の師であったという事実、その作品を発見。流石に私自身の体にピリピリと走るものあり。体に流れるDNAを試してみるか？俳句に対するヤル気と好奇心、走り出すと周りから俳句への声がかかってくる。以来、小学校の頃の仲間との句会、玉木さんの奥様の句会、読売新聞への投句等、積極的に活動しています。

句づくりを日常生活の中に取り入れるようになってから、道端の草々、鳥や虫の声日常の中の小さな変化にまで五感が働くようになりました。最近読んだ俳句の本に、句づくりは引き算だと書いてありました。思いついた言葉を先ずはならべ、重なりや説明になっている部分をそぎ落として、五七五の十七文字で、読む人にその句の持つ意味をいかに正確に伝えられるか。正面から、大上段に構えて句づくりに言える才能はまだ持ち合わせていませんが、継続は力なり！そのうち私自身の俳句のカタチが作れたらと思っています。

先日、純正律音楽の普及活動で、お世話になっていた、永六輔氏の訃報を耳にしました。玉木さんがお元気だったころ、洗足学園でのコンサートの折、控室で、俳句の会の話になり氏が参加していた「東京やなぎ句会」の話をされ、メンバーの欠ける寂しさを話されておられました。私達はまだまだ、元気に続けていきたいものです。

玉木さんのラジオ番組出演、CDの帯への推薦文等々本当にお世話になりました。合掌

〈六輔のラジオ背負ひて逝くや夏〉 三五郎

**玉木宏樹遺作 小説【春の声】**  
**連続四回 第一回**

三月の中旬とはいえ、まだ肌寒い。

息も白くなるような霧雨にけぶられ、春は出番を見失ったかのようだ。

「ここだ、ここだ。よかった、先生。まだやってるですよ」

先生とよばれるにしてはまだ若そうな男は、脂切った中年紳士に引きずられるような格好で、バー「春の声」の前に到着した。

中年の方がドアを押しあけると、カウベルのカランコロンという音と同時に、女の声がとんでくる。

「あら、大山先生、しばらく。外は寒いでしょう」

厚化粧に低い声。年令不詳だが、だいたい人生の半ばあたりだろう。

「やあ、ママ。おそいけど、ちょっといいだろう。珍しいお客さんをつれてきたんだ。こちら、作曲と指揮の大先生、Iさん」

「あらまあ、よくいらっしやいました。作曲のI先生って言うと、えーっとNHKの大河ドラマの……」

「そうそう、でもそれだけじゃないぞ。いまいちばんの売れっ子だからな。CMは千曲越えたし、交響曲は三つ。ハハハ、変な取り合わせだが……。最近は、クラシックの指揮の方でもデビューしたばかりなんだ」

「まあまあよくいらっしやいました、こんなところへ。ほんとに外は寒いでしょう。さあさあ、こちらへどうぞ」

Iと呼ばれた男は、身長175くらい。やや浅黒い精悍な顔つきを、神経質そうなサングラスでかくし、作曲家作詞家、作家、デザイナー、そのどれにでも当てはまりそうな、よくある自由人タイプである。

何軒かのハシゴの末らしく、顔はシラフでも脚元は少しフラついている。

男は女を見た一瞬、ハッとしたような表情を見せたが、たちまちのうちにシラケ返って低い声で言った。

「もう二時かあ、タクシーそろそろつかまるかなあ」

「先生ったらヤアねえ、ついたばかりでそんなあ、まあ、ゆっくりすわってくださいな」

店の中は、壁という壁、一分のスキもなく柱時計や古い刀剣類、SP盤などで飾り立てられ、煩雑なアンティークのムードを出そうとしている。

「ママ、こんどI先生に＜春の祭典＞をテーマにしたアニメの音楽をやってもらうことになってね、今日、N響のコンサートに行ってきたところなのさ。ママ、＜春の祭典＞わかるかね」

「ストラビンスキーでしょ。それくらい知ってますよ」

「おととと……。じゃあ、題名に＜春＞のつくクラシックの曲、どれくらいご存じかな」

「まあ、先生ったら、入ってくるなりテストですか……」

ヴィヴァルディの＜春＞でしょ。メンデルスゾーンの＜春の歌＞、シューベル

トの〈春の夢〉、モーツァルトの〈春への憧れ〉、グリーグの〈春に寄す〉それから……」

「ハハハ、演歌専門かと思ってたのに〈春〉のつく曲だけは気になるんだな。よくごぞんじで」

男は、二人の会話を全く無視して、古びたチーク材の椅子に腰をおろし、奥の方を見て、少し不快な表情を浮かべた。

奥では、酔客がひとりで「昭和かれすすき」をかなりながらマイクと格闘し、その横ではなんと、若い男がヴァイオリンで伴奏しているのだ。

中年紳士は、男におもねるような口調で言った。

「アンティークに演歌ヴァイオリンか、いやはや恐れ入った組み合わせ……。いささか趣味が悪かったかな」

女はすかさず男の言葉を引きとって、奥の方に声をかけた。

「圭ちゃん、いいかげんにして、こちらへいらっしやい」

圭ちゃんと呼ばれた若者は、演歌の伴奏にうんざりしていたのか、ムツとした酔客をほうりだし、小走りに近よってきた。

蒼白でスリムな体に黒の上下。一見、メフィストスタイルの文学青年タイプだ。

「圭ちゃん、しばらくだなあ。いくつになった？」

「33になりましたねえ」

「じゃ、I先生の四つ下か……。どっちも若く見えるなあ」

「男にお世辞言ってどうするんです。変な先生。それよりも圭ちゃん。こちら、あのI先生よ」

「はい。それはもう、入ってこられたときからわかっていました。こんな近くでお逢いできてお話しできるなんて、ほんとに夢のようです。実はぼく、先生の大ファンでして、先生のレコードやCD、全部もってるし、映画もTVも全部見てます。ああ、ドキドキしちゃうなあ」

本当にドキドキしているのか、圭ちゃんは眼の前のコップの水を一気に飲みほした。

「おいおい、全部見たってのはオーバーだろう。この店にはTVなんかないしさ」

「いえ、ちゃんとビデオをセットしてますよ」

「すごい隠れファンがいたもんだなあ、こりゃ驚いた」

中年紳士は大ゲサに驚いてみせたが、男は全く無視して脚を組みかえただけだった。

「圭ちゃんほどじゃないけど、私も長年のファンでね。先生は、世界に誇るべきモーツァルトの再来といってもいいくらい、素晴らしい切れ味の音楽性をもっておられる。前々から仕事をお願いしたかったんだけど、何をどうやってお願いしようかとずっと考えあぐねてねえ……。しかし今回の企画だけはいささか自信があって、これなら先生も快く乗ってくださるという確信をもってお願いしたらやっぱりうまくいったわけさ。そのお祝いに飲みまわってきたんだ。いやあ、先生の飲みっぷりの豪快なことときたら、まるで馬のようにしてビールばかり……。その割には先生、トイレにいきませんなあ、ワッハハハハハ……」

「先生はたしか、芸大のヴァイオリン卒業ですよ」

圭ちゃんは、ややうわずった声でたずねた。

「よくごぞんじですね」

男はさしたる関心もみせずには答えた。

「おいおい君、先生がどこの出だろうと関係ないじゃないか。昔のヴァイオリニストはみんな立派な作曲を残してるんだぞ」

女が水割りを作ったが、男は手に取る様子もない。相当飲み疲れているのだろう。

「いやそんなことじゃないんですよ。先生に変なヴァイオリン聴かせちゃったことで参ってるんですよ。ほんとに恥ずかしいなあ」

「なあに、そんなことならなにも気にすることはない。東京広しとはいえども、あのシューベルトの＜菩提樹＞をヴァイオリンで伴奏してくれるのは、ここしかない。東京に一軒、いや、世界中で一軒の貴重な店だ。ああわが青春、リルケに恋した過ぎ去りし日々。夜ごと口づさみぬわが菩提樹よ」

「菩提樹はリルケじゃありません。ミュラーの詞です」

いまにも歌いださんばかりの中年紳士にたいし、若い男はピシャリとイヤミをぶつけた。

圭ちゃんがすかさず話をひきつぐ。

「ドイツリートを、ヴァイオリンで伴奏するというのも変な話ですが、まだましなんです。お客のほとんどが演歌でしてね。

最近空オケブームだから、みんな歌いたがりばかり。そんな伴奏を毎日毎日やっていると、ほんものの演歌師になったような気分ですよ」

「オーイ、オレ帰る」と、奥の酔客が大声を上げ、あわてて女がなだめにいった。

圭ちゃんは吐きすてるように舌打ちする。

「大丈夫、あの人、古いから-----、それよりぼく、先生にいっぱいお訊きしたいことがあるんですけど、いいですか」

「おい、圭ちゃん、先生はお疲れなんだよ。仕事の話、音楽の話はやめ」

「気を使わなくてもいいですよ。ぼくは一向にかまわない」

言葉に反し男は、不快感に唇をすぼめて下を向いていたが、やがて少し意地の悪そうな笑みを浮かべていった。

「まあ、話もいいけどキミ、ひとつ＜春の声＞を奏いてくれませんか」

「えっ」

「＜春の声＞ですよ。この店の名前、そう言うんでしょ」

「ええ、あの、ヨハン・シュトラウスのワルツの-----」

「＜春の声＞。だったらひとつ、奏いて下さいよ」

「先生、御冗談でしょ。ぼくの腕前なんて、さっきお聴きになったように-----」

「ぼくは奏いて下さいと、お願いしてるんです」

男の口調はトゲ返り、ウムを言わせぬ迫力があつた。

圭ちゃんが立ち上がると同時に、酔客は、すてゼリフを吐きながらでていき、店の中は四人だけになった。

ミファ・ソファミファドシラシミレドレ・ソ・・・ソファ・・・ミミ・・・ドレ・・・

シドーーーー-----

圭ちゃんのヴァイオリンは、お世辞にもうまいとはいえない。

ミファ・ソファミファシラソラレドシド・ラ・-----

ワンフレーズ終わると、圭ちゃんは頭をかきながら戻ってきた。

「もうカンベンしてください。恥かっちゃって-----」

さすがに気がさしたのか、男の口調が少し柔らかくなった。「店の名前にするくらいだから、よほど好きなんでしょ、この曲」

「ええ、好きは好きなんですけど-----。この曲には実は、ぼくの大変な思いがありますね」

中年紳士は、電話をかけるといって、席を立った。

「どんな思い出です」

「ええ-----、中学時代に、いなかのしろうとオーケストラにいましてねえ、そのときにこれをやったことがあるんです。しかしむずかしかったですねえ。今でもうまく奏けません」

男の表情が少し動いた。

「へええ、それは-----。ぼくも小学校時代、アマチュアオケで<春の声>やったことがある」

「そうですか-----。それはナンといいますか」

「奇遇-----。フシギな偶然の一致ですね。ぼくも<春の声>には強烈な思いがあります。少し興味が湧いてきたな。その思い出話、よかったら聞かせてくださいよ」

「いや、下らない話で」

「下るか下らないかは、話の内容しだいです」

男は、また少し苛立ってきたようである。

「そうですか。でも、こんなプライベートな話、おもしろいかなあ-----」

男が目で先を促すと、圭ちゃんは座りなおし、あらたまった声で言った。

「ぼくはね、先生。生まれが神戸なんです」

「えっ！」

男は思わず声を出し、表情を大きく動かした。

「ええ、それに、ひどい貧乏人のひとり息子なんです」

男はキッと眼を見開いたが、こんどは声も出さず、水割りグラスを握りしめた。そして酔った眼の前にグラスをかざし、遠くをすかし見るようにしながら言った。

「それはおもしろい。だんだん興味が湧いてきた。キミ、これはなかなか、下る話かもしれませんよ」

そこへ、中年紳士が渋い顔をして戻ってきた。

「先生、ごめんなさい。実は急用を思い出しまして、すぐ帰らないといけないんですわ。どうぞ、先生はゆっくりなさってください。ああ、ママ。勘定はあとで私が-----」

「あなたが帰るんなら、ぼくも帰ります」

「そんな-----、せっかくの先生のファンがかわいそうじゃないですか。もうちょつとつきあってやってくださいよ」

(続く)

## 今後のスケジュール

### 【合唱と純正律音楽コンサート】

2016年9月17日土曜日 14時開演

会場：新宿文化センター(小ホール)

出演：水野佐知香(Vn.)、三宅美子(Hp.)、吉原佐知子(箏)

辻志朗、早稲田大学合唱団有志、洗足学園大学 LaLaLa Singers

入場料：前売り 3,000円 (当日券 3,500円) 学生 2,000円



おたより募集！

会報のご感想、ご意見、純正律音楽にまつわること等々、なんでもお寄せ下さい。たくさんのお便りを、お待ちしております。

次号の【ひびきジャーナル】にてご紹介させて頂きたいと思っております。

〒168-0072

東京都杉並区高井戸東 3-2-5-102 NPO 法人 純正律音楽研究会

お電話：03-5317-0291 FAX：03-5317-0289

e-mail：puremusic0804@yahoo.co.jp

<http://just-int.com/>

平成 28 年 8 月 19 日 発行責任者：NPO 法人 純正律音楽研究会

編集：相坂政夫